

# 創立 65 周年 上高地追悼記録

記 稲福

山域 北アルプス

期間 2024 年 10 月 12、13 日

メンバー L 河本 柴田 R 稲福

会の創立 65 周年の節目に、私たちは北アルプスで永眠されている中村俊彦先輩、安部幸男先輩の慰靈登山を計画いたしました。10 月の三連休の上高地は大変な賑わいをみせており、前夜に到着したものの沢渡駐車場は満車で停められず。かろうじて駐車できた石見平駐車場で仮眠をとりました。

翌朝合流した柴田君と上高地行きのバスに乗り込みました。先輩方のお墓がある場所は帝国ホテル前で降車した、道路を挟んだ針葉樹落葉広葉樹林帝国の鬱蒼としたで、足元には熊笹が広がる藪のなかです。

石川さんより伺っていた電線、大きな木など目印がなかなか見当たらず、三方向へ別れ必死に探しました。

其々で探しているうちに、「ありました～こちらです！」と、柴田君の呼び声が聞え、大きな倒木を乗り越え声のするほうへ向かうと、そ

こには熊笹や草に覆われながらも、確かに両先輩のお墓が苔むして佇んでいました。

中村先輩、安部先輩方は、昭和42年3月11日から12日にかけて前穂東壁Dフェースにてご永眠なされたのです。それから私たちは除草と清掃を丁寧に行い、御菓子をお供えして静かに手を合わせました。

中村先輩は享年30歳、安部先輩は享年29歳。あらためて両先輩方あまりに若すぎる享年に胸が痛みました。やすらかにご永眠されることを祈るとともに、私たち現役会員一同安全登山を徹底することをお誓い申し上げます。

お墓参りを済ませた後、唐沢まであがり幕営をいたしました。

翌日は前穂北尾根（河本・柴田）と前穂縦走（稻福）の予定の計画を立てていましたが、天候を鑑みて中止とし、安全を優先して下山いたしました。

高地の梓川から見上げる前穂高の東壁は、頂からアルプスらしい莊厳なムードを漂わせています。明神から梓川上流沿いに歩を進め

ると美しく仰ぎ見ることができます、その懐に上高地から入り込むと、その雰囲気は一変します。鉈でそぎ落としたような荒々しい岸壁となり、容易に人を寄せ付けない美しさと険しさを見せるのです。人は美しく険しいものに憧れ、引き寄せられる。井上靖の小説『氷壁』の一節にもあるように、美しさに憧れ命を落とした幾多の岳人がいるのです。

私たちは、両先輩方の残された山への強い思いを心に刻み、その志を継いでまいります。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



中村俊彦先輩 30才 安部幸男先輩 29才

昭和42年3月11日、12日前穂東壁Dフェースにて永眠